

4年3組 国語科学習指導案

指導者 佐々木 篤
場 所 4年3組教室

- 1 日 時 平成18年6月13日(火)
- 2 単 元 名 「ローマ字」
- 3 単元目標 ローマ字に興味を持ち、簡単な単語を読んだり書いたりする。

4 ひびき合う子どもたちを目指すための指導の工夫

(1) 児童の実態について

削除済み

(2) 目指す児童像

どんな場面でも聞き、話し、書ける、「聞きたがり・話したがり

・書きたがり」の児童

話したがり・書きたがり : 自分の考えを伝えることを楽しいと感じる児童

聞きたがり : 友だちの考えを聞くことよさを実感し、最後まで関心を持って聞く児童

インプット(聞く・読む)とアウトプット(話す・書く)のバランスのとれた児童

(3) 単元と指導について

《単元について》

最近、英語などのアルファベットが日常生活の中に深く浸透している。ローマ字学習においても、文字そのものは日常目にする機会も多いので、児童の関心は高いといえるだろう。また、多くの家庭にコンピューターがあり、入力を通じてローマ字に触れている児童もいるかもしれない。情報機器の操作において、現代社会ではローマ字の重要性は高くなっている。

表記法については、最初に訓令式、次にヘボン式を学習する。

訓令式 : 全てを、子音1字と母音1字の計2字で表す。

ヘボン式 : サ行やタ行のイ列にhやsが入る。(shi, tsu など)

《指導について》

知的好奇心を高めるためのアプローチ

仮説: 「分かった」「できた」「通じた」という実感がもてたときに知的好奇心は高まる。

普通の授業において、子どもが目を輝かせ、授業に食いついてくるのはどんな時であろうか。視覚的に訴えた場合、具体的な操作活動をしているときなど様々な場面が想起される。その根底に

共通して流れているものをシンプルに考えると、「『分かった』『できた』『通じた』という実感を持たせたとき」という点ではないかと考えた。

この仮説に、次のような視点から迫りたい。

- ・実態の把握及び教具の工夫(全ての児童が「分かる」ための準備)
- ・一人ひとりにあった課題(全ての児童が「できる」ための工夫)
- ・ペア交流(全ての児童が意思疎通をする機会の確保)

事前にアンケートを実施して、ローマ字の読み書きに対する実態・習熟状態を調べる。アンケートをもとに習熟別のグループを3~4つ作り、それぞれを近い座席に配置する。授業においては、単

語、文、理由をつけるなど、自分なりに難易度を選んで取り組めるようにする。ペア交流は、自分の座席付近で行うことで、自分の習熟度に近い児童と行うことができるようにする。ローマ字がコミュニケーションツールであるという特性を生かし、ペア交流によって、自分の書いたローマ字が友だちに「通じた」という実感を持たせたい。

「ひびき合い」のポイントとしては、ペア交流、つまり一対一のコミュニケーションに置きたい。

自分の書いたローマ字の言葉を見せ合う。そこで通じることが第一段階。書いたローマ字を元に感想が交換できれば第二段階。最終的には友だちにもらった感想を元に、ローマ字の書き方、コミュニケーションのとり方が向上する姿を目指したい。

友だちに読んでもらうという活動によって、相手意識を持ち、「読みやすい字」「分かりやすい書き方」を身に付けようとする意識を高めていきたい。

5 指導計画（全4時間扱い）

次	学 習 活 動	評 価
1	ローマ字に興味を持ち、読み慣れる	<ul style="list-style-type: none"> ・進んでローマ字を読もうとしているか〔関〕 ・簡単な訓令式のローマ字が読める〔言語〕
2	ローマ字に親しみ、書き慣れる	<ul style="list-style-type: none"> ・進んでローマ字を書こうとしているか〔関〕 ・簡単な訓令式のローマ字を書ける〔言語〕
	ローマ字に慣れ、読み書きの力をつける	<ul style="list-style-type: none"> ・進んでローマ字を書いたり読んだりしようとしている〔関(知的好奇心)〕 ・ローマ字で自分なりの内容を伝えようとする。また、友だちがローマ字で書いた内容を読みとろうとする〔響〕
4	ヘボン式を学び、生活に生かせるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なヘボン式のローマ字を読んだり書いたりすることができる〔言語〕

6 本時について

(1) 本時目標

ローマ字に慣れ、ローマ字を書いたり読んだりすることができる。
 ペア学習を通じてコミュニケーションをとることができる。

(2) 本時展開(3/4)

学 習 活 動	指導上の留意点(=評価)
1 ローマ字の読み・書きの復習・確認(ノート) 黒板のローマ字を日本語で書く 黒板の日本語をローマ字で書く	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ、10問程度ずつ出題する。
2 学習課題の確認 ローマ字で友だちのことをもっと知ろう!	
3 テーマ 《自己紹介》 「わたし(僕)の得意なこと」	<ul style="list-style-type: none"> ノートに貼った用紙に書くようにする 単語で書く、文で書く、理由をつけるなど、自分にあった書き方ができることを伝える テーマに従い、ローマ字を書こうとしている〔関〕 自分の書こうと思っているローマ字を書くことができる〔言語〕
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 4 ペア交流 (1隣 2前後 3自分の周りで) ノート交換 それぞれワークシートに日本語で「読み」を書く 一言感想交換 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 相手の名前と「読み」はワークシートに書き込むよう指示。 「一言感想のポイント」提示 いいところを見つけてほめる 書いてあった内容についての感想 文字・書き方について感想 一言アドバイス ローマ字を使って伝え、それをもとにコミュニケーションをとることができる〔響〕
5 テーマ 《質問》 「友だちに質問しよう『好きな 』」	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 6 ペア交流 (座席フリー) ノート交換 それぞれのワークシートにローマ字で「返答」を書く 一言感想交換 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ペア交流 と同様。 ローマ字を使って伝え、それをもとにコミュニケーションをとることができる〔響〕
7 全体交流	<ul style="list-style-type: none"> 1～2名黒板に書かせ、全体で読む。 進んで自分の考えを伝えようとする〔関〕

(3) 本時の視点

ローマ字に慣れ、ローマ字を書いたり読んだりすることができたか。
 ペア学習を通じてコミュニケーションをとることができる。